

第3回 多摩の学生

まちづくり コンペティション 2016

本戦出場団体が決定

3回目の「多摩の学生まちづくりコンペティション」選考会が9月17日、明星大学日野キャンパスで行われました。10校22団体の学生が多摩地域全般でフィールドワークして得た活性化への道筋を発表。審査の結果、6団体が12月18日、立川市柴崎学習館で開かれる本選に臨みます。

後援：立川市、八王子市、日野市、多摩市、小金井市、羽村市、福生市、町田市、公益財団法人東京市町村自治調査会 協力：日本経済新聞社多摩支局



プレゼンテーションを聞く側も真剣



どの団体も緊張の面持ちで発表する学生たち



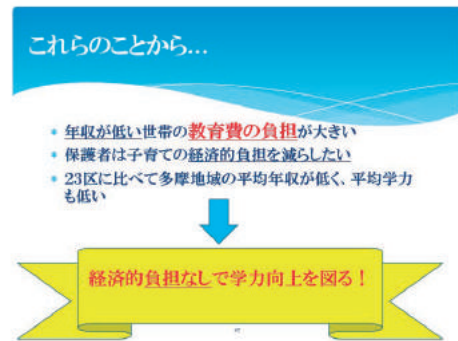
コンペを終え審査内容を吟味する審査委員たち

帝京大学湯川ゼミナール1班

日野市、八王子市、多摩市

小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！ ～教育で魅力のあるまちに～

少子化の要因の一つとして、子育ての費用の高さが指摘されており、また、低所得者ほど教育費の負担が大きいことが明らかになっている。その中で、多摩地域の平均年収は、23区の平均年収と比較して大幅に低く、上述した問題が懸念される。そこで、多摩地域の大学で教員を目指す学生を講師とした無償塾を開設し、子どもに対する学習支援を行うことで、子育て費用の軽減を実現化する。



教員を目指す学生が子どもたちに学校外の教育機会を提供。地域全体の学力向上を目指す。

審査委員コメント：子どもと大学生それぞれにメリットがある。大学もうまく巻き込んで講師の確保や質の維持などクリアしてほしいです。

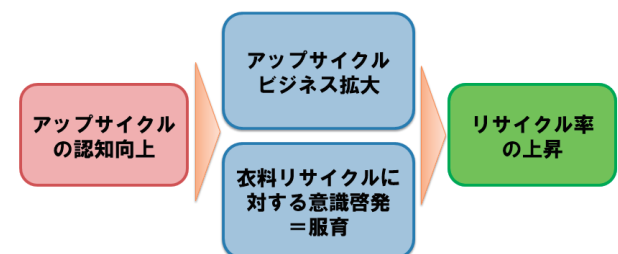
創価大学西浦ゼミ 衣料班

立川市

環境にやさしいまちづくり 衣類のリサイクルを推進する取り組み

日本において、衣類のリサイクル率は、アルミ缶や紙のそれに比べ非常に低い。その数値は、他国における衣類のリサイクル率と比較しても低く、日本は「衣類のリサイクル後進国」であると言える。そこで、私達は多摩地域においてファッション性が高く買い物客が訪れやすい立川市で、衣類のリサイクル活動を行う。

アップサイクルの意義



次世代のリサイクル「アップサイクル」による商品の開発・展示を行うとともに、衣料品を素材にしたオブジェを展示し、認知度の向上をはかる。

審査委員コメント：大量消費時代に「永久循環」をめざす大変チャレンジングなテーマ。廃棄量削減につながる効果まで示すと良いと思います。

ムスリムウェルカムタウン 八王子 ムスリムが安心して食を楽しめる街へ

商店街を活用して訪日ムスリムに対する食の安全化を図る。現在、訪日ムスリム人口は増加の一途を辿っており、今後もその傾向は続くと思われている。その一方で、ムスリムが順守するハラルのルールに沿った食の提供は多摩では進んでいない現状がある。八王子の商店街と連携しムスリムフレンドリーな製品を提供できるシステムを構築し、ムスリムの食の安全を保障する。またこの施策によって、商店街を基軸とした地域復興も図る。



ムスリムの宗教戒律品目をわかりやすくピクトグラム化。ムスリムフレンドリーなレストランをマップ化し、地域の活性化を図る。

審査委員コメント：東京オリンピックを4年後に控え、実現可能な提案だったと思います。これからの展開も頑張ってください。

瑞で繋がる多摩のまちづくり ～MIZU 沁み渡るTAMAらない旅プロジェクト～

多摩地域は、水が豊富で、地域の様々な物事は水をキーワードに結びつけられる。水を地域資源ととらえ、酒や森や田畑、農産物とともに情報発信する。その上で、多摩地域は豊かな水に関連した魅力的な場所や文化があると地域外の方、とくに20～30代の女性に知ってもらい、人口減少が進む中で、交流人口増加による地域活性化を図る。同時に、地域や人と関係を深める体験も提案し、再訪したくなるまちづくりを目指す。



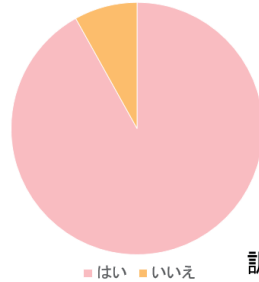
水を観光の中心にすることで、多摩地域に点在する様々なものを結び付けてアピールする。

審査委員コメント：「瑞」のキャッチネームはおもしろい。ターゲットを広げていくことで、さらに企画力がレベルアップすると思います。

学生をもっと主体的に！ 地域を元気づけるのは学生(君たち)だ！

多摩地域の一角である八王子市は、21校の大学が存在し、10万人以上もの学生が学ぶ全国有数の学園都市である。しかし、大学生は学生時代に重要であると思っていることとその行動が結びついておらず、主体性が欠けているという現状がある。私たちは、八王子市の地域活性のためには、より主体的に学生が行動することが重要であると考え、地域の活性化を通して、学生の夢を追いかけるサポートをする施策を提案する。

使い切れない化粧品ありますか



92%
はい

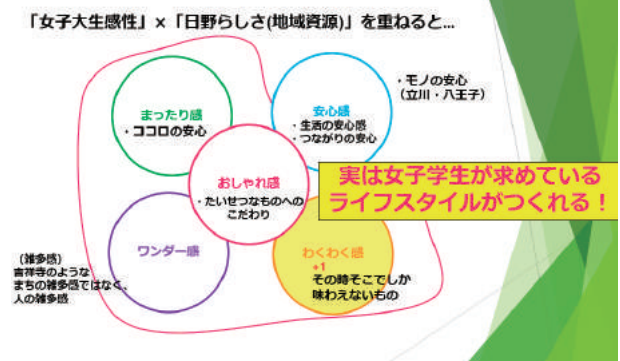
調査対象：女子大学生74人

多くの学生が使い切れていない化粧品を有効利用し、クラフト作りの体験教室への提供など、八王子市のものづくりに貢献する。

審査委員コメント：女性ならではの面白い着眼点だと思います。結婚式場などとタイアップするのも良いのでは。

ローカルメディアの可能性の探求 学生に人気の高いまちづくりをねらいとするライフスタイルマガジン

日野市に住む・通う学生に向けたライフスタイル提案型マガジンの企画・発行を学生が行うものである。日野市は、水と緑の豊かな自然・都市農・こだわりのお店・活発な町会活動など、過ごしやすい多くの魅力があるにも関わらず、それに気づかず卒業し、日野を離れてしまう学生が多い。そこで、現代の女子大生の感性にマッチする日野ならではのライフスタイルを提案し、若い人を呼び込み、そのまま住み続けたいまちづくりに繋げたい。



女子大生ならではの感性で、地域の地域資源を掲載したライフスタイルマガジンを編集・発行することで、学生の町への愛着を深める。

審査委員コメント：女子大生の視点や注目度を活かした取り組みだと思います。地域住民とも連携してぜひ実現させましょう。